

学校研究課題

**学ぶ楽しさを実感し、自ら学び合う児童の育成**

～魅力ある授業への改善を通して～

**1 研究計画****(1) 課題設定理由**

本校では、研究授業と並行して言語力育成を重点とした「まなびタイム」を日課の中に設けたり、ICTの活用を図ったりして、自分の思いを豊かな語彙で表現できるような取組をしてきた。また、子どもたちが「わかる」「できる」が実感できる授業になるよう、ねらいの吟味や教師の発話の工夫をし、授業の改善に努めてきた。それらの成果として、授業の中で、自分の言葉で発表したり、興味を持って学習に取り組んだりする子が増えてきた。しかし、難しい課題にもあきらめられないで自発的に取り組み、友だちと学び合おうとするところにまでは達していない。

そこで、本年度は、様々な教科・領域の中で、学ぶ楽しさを実感し、主体的にめあてに向かって学び合っていく力を育成したいと考え、本課題を設定した。

「学ぶ楽しさ」を実感するとは、単に興味・関心をもつだけでなく、「わかった」り「できた」り「友だちと学んでよかった」と感じることである。学習内容に関して確実に知識や技能の習得を保障し、楽しさを実感できるような学習活動を積み重ねることで、自発的学習につながっていくものとする。そのためには、授業を改善することが必要である。本年度は、特に、教師の授業力の向上ということで、単元をどのように創造していくか、授業をどのようにコーディネートしたらよいかなどの研究を進め、魅力ある授業をめざしていきたい。

**(2) 研究の仮説**

各教科・領域の授業において、教師の授業力を高めることで、児童が学ぶ楽しさを実感できる授業になり、学び合える子どもが育つであろう。

**(3) めざす児童像****学び合える子ども**

- ・学ぶべきことが分かる
- ・自分の考えや意見をもつ
- ・人の考えや意見を聞き、それを生かす

**2 研究の内容（◎は本年度の重点）****(1) 研究授業・授業研究を通しての実践的な研究**

◎授業力（①単元創造力②授業構成力③授業コーディネート力）の向上

①伝え合い、学び合いを深めるための交流の位置づけと工夫

（単元のまとめに発展問題や活用問題を位置づける）

②ねらいの達成度を形成的に見ることでできるねらいの工夫と振り返りの設定の工夫

③児童の考えの引き出し方、児童と教師、児童と児童の考えのつなぎ方の工夫

**(2) 学習意欲と効果を高めるための学習環境の整備**

◎学習規律の継続指導

- ・学習関連の掲示の見直し
- ・家庭学習の充実

**(3) 学力調査の分析と補習の計画**

◎デキルヨ・まなびタイムの効果的な活用法の工夫

◎各種調査問題の指導計画への位置づけ

- ・全国学力学習状況調査、とちぎっ子学力調査の分析と補習の具体策